

「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進することを目的に活動を行ってきたICCは、今年で開館10周年を迎えます。

Open Space 2007

オープン・スペース 2007

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

2007年4月19日(木) — 2008年3月9日(日)

年度を通じた入場無料のコミュニティ・スペース「ICC オープン・スペース」を、展示作品を入れ替え、新たなラインナップで公開します。

ICC開館10周年記念セッション・シリーズ Vol.1 特別シンポジウム「メディア×アートの創造と未来」

2007年4月21日(土)、22日(日)

今年度を通じて、分野を超えて人々が対話を行なうイベントを多様なかたちで展開していきます。

シリーズ第一弾として、4月には2日間に渡り、シンポジウム「メディア×アートの創造と未来」を開催します。

プレス内覧会のご案内

2007年4月18日(水)
午後5時 — 8時

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]は、日本の電話事業100周年（1990年）の記念事業として1997年4月19日、東京/西新宿・東京オペラシティタワーにオープンした文化施設です。ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していきます。

お問い合わせ：NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

広報担当：菊池真一

TEL：03-5353-0800 FAX：03-5353-0900

e-mail：kikuchi@ntticc.or.jp

URL：http://www.ntticc.or.jp/

オープン・スペース

ICC オープン・スペースは、ギャラリーの一部、図書室、ミニ・シアター、ラウンジなどを活用し、年度を通じて開放される入場無料のコミュニティ・スペースです。

これまでICCが理念として掲げてきた活動の集積として、アート&テクノロジー、研究開発、ネットワーク、アーカイブなどのゾーン及びコーナーにおいて十数点の作品が無料で鑑賞できるとともに、ICCの活動の歴史をさまざまな資料、映像記録などにより参照することが可能です。

カフェ、ショップ、休憩スペースなどのアメニティ機能を持ち、くつろぎ楽しみながら先進的な表現活動に出会い、交流し、新しいコミュニケーション文化の流れを感じ取れる「場」となることを期待しています。

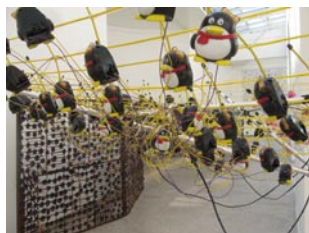
アート&テクノロジーゾーン

ART & TECHNOLOGY

アート&テクノロジーゾーンは、メディア・アートを代表する作家による作品を体験し、また「インタラクティブ」「映像」「インターネット」といった複数のキーワードに沿った解説によって、近年の情報社会における芸術表現の推移を概観していただくエリアです。さらに、企業や公的機関や大学などの研究開発展示から、若手クリエイターの紹介および発表の場の提供、また、1990年以降のアートおよび社会・文化的動向をまとめた年表などにより、来館者の多角的な理解を促すことを目的としています。ほかにも、音の反響が吸収される部屋、無響室やラウンジなどを併設しています。

出品作品 (順不同)

- ◆岩井俊雄 《マシュマロスコープ》 2002年
- ◆中居伊織 《streetscape 初台》 2004年
- ◆minim++ 《KAGE》 1997/2007年
- ◆江渡浩一郎 《モジュロープ》 2005年
- ◆クワクポリョウタ 《PLX》 2001年
- ◆ゴラン・レヴィン
《シークレット・ライヴズ・オブ・ナンバーズ》 2002年
- ◆エキソニモ 《rgb f_cker》 2003年
- ◆ウスマン・ハック+アーダーム・ショムライ=フィッセル
《リコンフィギュラブル・ハウス：ハッキング・ローテック・アーキテクチャー》 2007年
- ◆グレゴリー・バーサミアン 《ジャグラ》 1997年
- ◆平川紀道 《DriftNet》 2005年
- ◆武藤努 《オプティカル・トラジェクトリー 2》 2006年
- ◆無響室
- ◆インタラクティブ年表



ウスマン・ハック+アーダーム・ショムライ=フィッセル、リオリエント・チーム
《ラジオ・アーバー》 2006年
「リオリエント」展、ヴェネチア建築ビエンナーレ ハンガリー館、2006年
撮影：リオリエント・チーム



クワクポリョウタ 《PLX》 2001年
「韓国、中国、日本の若手作家」展、国立現代美術館、ソウル、2004年



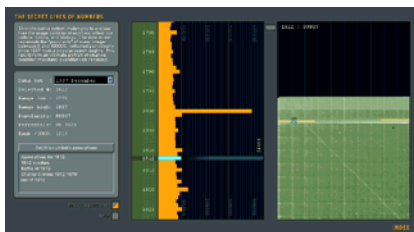
江渡浩一郎 《モジュロープ》 2005年
「モジュロープ-つくる、つながる、うごきだす」展、山口情報芸術センター (YCAM)、2006年



武藤努
《オプティカル・トラジェクトリー 2》 2006年



中居伊織 《streetscape》 2002年—
「ネクスト：メディア・アートの新世代」展、ICC、2004年
撮影：大高隆



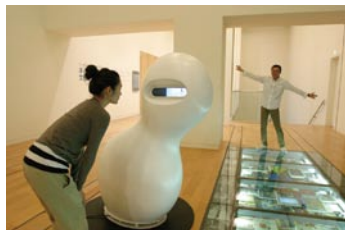
ゴラン・レヴィン
《シークレット・ライヴズ・オブ・ナンバーズ》 2002年



エキソニモ
《rgb f_cker workshop》 2003年
サイバー・アジア・ワークショップ
「ニューファンクション」、
広島市現代美術館、2003年



グレゴリー・バーサミアン
《ジャグラ》 1997年



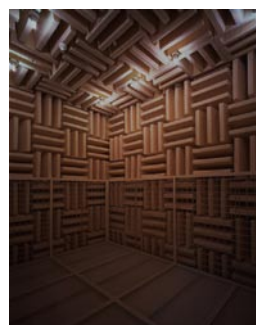
岩井俊雄 《マシュマロスコープ》 2002年



インタラクティブ年表



minim++ 《KAGE》 2007年



無響室

◆IAMAS PDP（プログラマブル・デバイス・プロジェクト）

蛭田直+原田克彦+金箱淳一+
佐竹裕行+柏木恵美子+赤松正行+小林茂
《ゲイナーカイダン》2007年

◆寛康明+苗村健+松下光範

科学技術振興機構（JST）、東京大学、
NTTコミュニケーション科学研究所
《テーブルスケープ・プラス》2006年

◆寛康明+苗村健

科学技術振興機構（JST）、東京大学
《スルー・ザ・ルッキング・グラス》2004年

◆クラウドティオ・ビニリアネス+マーク・ポダラセキ

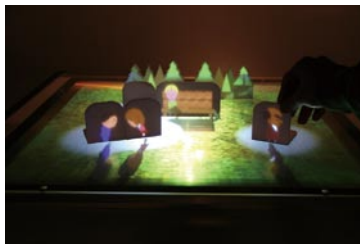
IBM T・J・ワトソン研究所
《エヴリウェア・インタラクティブ・ディスプレイ》2000年

企業の研究所で進められている先進的な研究や国が開発を支援するプロジェクト、大学などの教育機関における研究成果など、産官学それぞれの研究事例を紹介するコーナーです。技術者や教育現場から発想される未来像を提示するとともに、最先端技術の共同研究の場としても展開していきます。

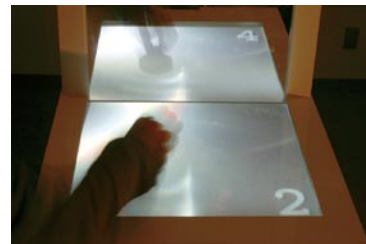
また、単に技術の刷新をめざすだけでなく、技術そのものがもつ文化的なインパクトや背景にも注目し、「研究開発」あるいは「技術」といった視点からみた、人間のコミュニケーションや認識の未来像を提示します。



クラウドティオ・ビニリアネス+
マーク・ポダラセキ
IBM T・J・ワトソン研究所
《エヴリウェア・インタラクティブ・ディスプレ
イ》2000年



寛康明+苗村健+松下光範
科学技術振興機構（JST）、東京大学、
NTTコミュニケーション科学研究所
《テーブルスケープ・プラス》2006年



寛康明+苗村健
科学技術振興機構（JST）、東京大学
《スルー・ザ・ルッキング・グラス》
2004年

新進アーティスト紹介コーナー「エマージェンシーズ！」

emergencies!

「エマージェンシーズ！」*は、今後期待されるアーティストやクリエイターの最新の作品やプロジェクトをいち早く展示するコーナーです。年間3、4回のペースで、アートや科学の新しい可能性を開いていく実験的な表現を幅広く紹介していきます。メディア・アートにおいて現在生まれつつあるものを体験いただくとともに、それらを生み出すアーティストたちの発想の源泉に触れていただきます。

* 「エマージェンシーズ」は、emergence（出現、創発）、emergency（非常事態）、urgency（緊急のもの）、agency（発動力、媒介者）による造語です。

エマージェンシーズ! 004
谷口暁彦「ダングリリング・メディア」



谷口暁彦
《The HelicopterBand》2006年—

ネットワークゾーン

NETWORK

インターネットを中心にさまざまなネットワークが生活の中に入り込んできた現在、そうした技術変化を語る上で「ネットワーク」という言葉を欠かすことはできません。このゾーンでは、ネットワーク技術に触発されたアート作品、あるいは新たなコミュニケーションや表現の創発を促すような技術を展示します。

ネットワークによって、遠方にいる複数の他者とのやりとりや、空間的に分断された人間同士がつながりあうということにどのような新しい認識可能性が生まれるのでしょうか？このゾーンではそのような問いに対する答えとなるような作品や双方向の高画質映像配信技術などを展示します。

出品作品（順不同）

- ◆橋本弘太郎
dpa project
科学技術振興機構（JST）
東京大学 廣瀬・谷川研究室《Sharelog》2006年
- ◆伊藤麻梨子+NTTレゾナント《電書咲花 on goo》2007年
- ◆石井裕
MIT タンジブル・メディア・グループ《インタッチ》1997年
- ◆Now Online



石井裕
MIT タンジブル・メディア・グループ
《インタッチ》1997年



橋本弘太郎
dpa project
科学技術振興機構（JST）
東京大学 廣瀬・谷川研究室
《Sharelog》2006年



伊藤麻梨子
《電書咲花》2006年

アーカイヴゾーン

ARCHIVE

アーカイヴゾーンは、図書室での資料の閲覧やミニ・シアターでの映像作品の上映、およびICCの映像アーカイヴ「HIVE」（ハイヴ）によって構成されています。

HIVEでは、ICCの所蔵するビデオ・アート作品、アーティスト、科学者、批評家などのインタビュー映像、1997年の開館以後開催されてきたICCの数多くの活動—展示、シンポジウム、トーク、ライブ・イベント、ワークショップ—の映像記録をデジタル化し、コンピュータ端末から閲覧できるようにしています。

また、上記のコンテンツのうち一部はHIVEのウェブサイト（<http://hive.ntticc.or.jp/>）からも視聴することができます。ウェブ版の映像には、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスが付与され、非営利目的での創造的利用を可能にすることで、文化資源としてのICCの活動記録をよりオープンなかたちで社会に開示することを目指しています。



図書室



HIVEコーナー

「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進することを目的に1997年に4月に開館したICCは、今年10周年を迎えます。この10年の間に情報技術は大きく変容を遂げました。とりわけデジタル・ネットワーク環境の浸透は、空間を超えた人々の情報発信や共有を日常的なものとしはじめています。そのような現在、アートやメディア・テクノロジーのもつ意義と可能性を、社会や文化との関係においてあらためて位置づけ、問い直すことが求められているといえるでしょう。

そのための場としてICCでは、「開館10周年記念セッション・シリーズ」と題して、年度を通じて複数のテーマを設定し、分野を超えて人々が対話を行なうイベントを多様なかたちで展開していきます。シリーズの第一弾として、4月には2日間に渡り、特別シンポジウム「メディア×アートの創造と未来」を開催します。

ICC開館10周年記念セッション・シリーズ Vol.1 特別シンポジウム 「メディア×アートの創造と未来」

たえまなく更新される情報環境にともなって、メディアをめぐるアートや創造の領域は、かつてないほど多様化してきています。現代における創造とは、文化、科学、技術など社会の動向と関わりつつもそれを独自の視座から照射することで、広く人々の参加やコミュニケーションへと開いていく側面をもつものといえるでしょう。このシンポジウムでは、メディア・テクノロジーとアートの創造的触発を通じて、メディア文化の形成と展開を最前線で牽引してきた方々を国内外からお招きし、過去10年にわたる状況とその変化を踏まえながら、未来における創造の可能性について多視点的に語っていただきます。

日時：2007年4月21日(土)、22日(日) 午後2時—5時

会場：ICCギャラリー A

定員：300名（当日先着順）

入場無料

*日英同時通訳付

4月21日(土)

パネリスト：

アレックス・アドリアーンセンズ (V2_オーガニゼーションディレクター、オランダ)

藤幡正樹 (メディア・アーティスト/東京芸術大学大学院教授)

三上晴子 (アーティスト/多摩美術大学准教授)

ノ・ソヨン (アートセンター・ナビディレクター、韓国)

モデレーター：畠中実 (ICC学芸員)

4月22日(日)

パネリスト：

阿部一直 (山口情報芸術センター アーティスティック・ディレクター)

アレッサンドロ・ルドヴィーコ (『neural』誌 エグゼクティブ・エディター、イタリア)

ケイシー・リース ("Processing"共同設立者/UCLA准教授、米国)

高谷史郎 (アーティスト/ダムタイプ)

モデレーター：四方幸子 (ICC学芸員)

※セッション・シリーズの以後の予定は、随時ウェブサイトにてご案内いたします。

特別展示 「ICCクロノロジー：1997-2006」

ICCの10年間の活動の軌跡を、過去のポスター、年表、映像によって紹介します。

日時：2007年4月19日(木)ー6月24日(日)

会場：ICCギャラリー A

開館時間：午前10時ー午後6時（入館は閉館の30分前まで）

休館日：月曜日(月曜が祝日の場合、翌日)

入場無料



オープン・スペース開催概要

開館期間：2007年4月19日(木)ー2008年3月9日(日)

会場：NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

開館時間：午前10時ー午後6時（入館は閉館の30分前まで）

休館日：月曜日（月曜が祝日の場合翌日）、年末年始（12月28日ー1月4日）、
保守点検日（8月5日、2月10日）

入場無料

主催：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

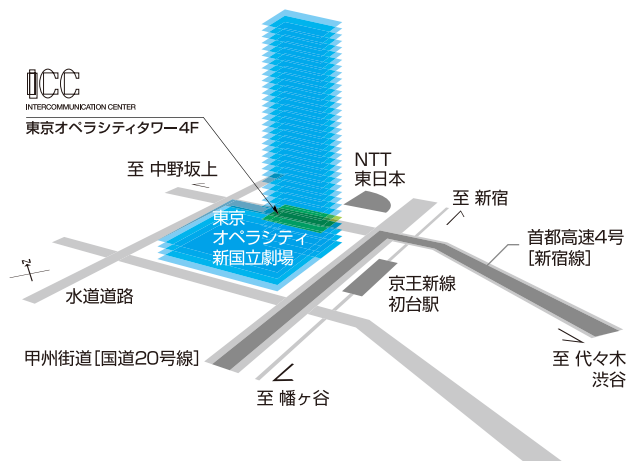
住所：〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー 4階

京王新線 初台駅東口から徒歩2分

お問い合わせ：フリーダイヤル 0120-144199

E-mail：query@ntticc.or.jp

URL：http://www.ntticc.or.jp/



広報に関するお問い合わせ：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

広報担当：菊池真一

TEL：03-5353-0800 FAX：03-5353-0900

E-mail：kikuchi@ntticc.or.jp

